

令和 7 年度 県立茨城東高等学校自己評価表

目指す学校像	「友」とともに。「先生」とともに。「地域」とともに。さあ！新たな一步を踏み出そう！ ○自分の発想やアイデアを大切にし、何にでもチャレンジする姿勢を育成する。 ○学校生活を通じて、集団活動の良さを理解し、思いやりの心を持った良い人間関係を育成する。 (1) 新たな夢・希望を常に持ち続け、自己の未発見の可能性を知る。 (2) 基本的生活習慣を確立し、基礎学力を向上させ、希望進路の実現を目指す。 (3) 感謝の心で生活し、多様性とお互いの良さを認め合える集団づくりを実践する。	
三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○グランドデザインの「目指す生徒像」等に対応 ①目標に向かって自ら考え、個性と創造力を活かし、一生懸命に取り組むことのできる人財。 ②知的な好奇心を持って探究し、自らの意志で選択できる人財。 ③社会の多様性を理解し、地域を牽引するリーダーとして、地域社会に貢献できる人財。 ④他者を思いやり、公共や倫理を重んじることができる人財。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○学校経営計画表の「中期的目標」等に対応 ①健全で調和のとれたたくましい人間育成を目指し、規範意識の高揚と基本的生活習慣の徹底を図るための道德教育の確立の実現。 ②確かな学力を身に付けるため、自らが学ぼうとする態度を身に付けるための指導と、基礎学力の向上を図る教育課程の編成。 ③SDGs等についての理解や参加を促すため、地域社会の教育力との連携を深めるなど他者と協働し、地域の環境保全や国際理解を図るための体験的な学習と探究する機会の提供。 ④キャリア教育の充実を図り、アウトプットの学びをとおして進路意識を高揚させ、進路希望に応じた選択科目を適切に選べるようなガイダンス機能の充実と進路指導体制の確立。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○入学者選抜における特色選抜実施概要の「出願要件」等に対応 ①学校生活に目標や活力を持って主体的に臨み、生徒会活動や学校行事、資格取得、部活動等に限らず自身の得意を伸ばそうと積極的に取り組む意欲のある生徒。 ②地域の諸課題や環境保全に興味を持ち、ボランティア活動や探究活動等を通して地域を支え、地域に貢献しようと努める生徒。 ③学びに向かう意欲があり、学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自立した職業人として社会に貢献しようとする確固たる意思を持つ生徒。

別紙様式 2 (高)

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
1 学校設定科目「ベーシックトライ」における電子黒板の活用と反復学習により、基礎学力の向上が見られた。 学校設定科目である「キャリアデザイン」と「ベーシックトライ」を導入した効果が表れており、進路未決定者が減少傾向にある。	(1) キャリア教育を軸として地域の教育力を活かした取組のさらなる充実を図る。	ア 全職員の共通理解のもと、キャリア教育の取組を推進する。 イ 生徒、保護者、地域の要望を的確に把握し、特色ある取組を実践する。 ウ 学校規模、生徒の実態等を考慮し、取組の改善に努める。	B
2 就職については、学校からの紹介を希望する生徒の内定率は 100%となった。進学においては、四年制大学希望者の中で総合型入試により私立大学への進学を果たしている。 学習に苦手意識を持ち、学習習慣が身に付いておらず、学習目標が設定できない生徒に対して I C T 等を活用して継続的な学習指導の徹底を図る。	(2) 生徒一人一人の進路実現に向けた教育活動のさらなる充実を図る。	ア 学習指導要領の内容に即した「ベーシックトライ」の効果的な指導方法の改善を図る。 イ 習熟度別学習や少人数指導によって、基礎学力の確実な定着と応用力の育成を図る。 ウ 「主体的で対話的な深い学び」を実現するために I C T の活用や探究学習を取り入れた授業改善を積極的に実施する。 エ 教員による相互授業参観や校内研修等を実施して、指導力の向上を図る。 オ 家庭学習の習慣化とチャイム着席指導を徹底することで、授業を大切にする意識を育成する。	B
3 基本的生活習慣の確立において指導を要する生徒には、保護者と連携した指導を継続していく。 全職員一丸となって遅刻指導や服装頭髪指導など身だしなみの指導に取り組んでいる。 いじめの事案については、早期発見に努め、いじめ防止対策会議を中心として、学校全体で対処することができた。また、県教委や警察などの関係機関とも連携を図ることができた。 合理的な配慮を要する生徒等への対応は、専門家の指導助言をいただきながら改善を図ることができた。	(3) 道徳観・倫理観を育成し、豊かな人間性を培う。	ア 「ダメなものはダメ」という厳しい態度とともに、生徒に寄り添う姿勢で指導に当たる。指導は共通理解のもと教職員全体で行う。 イ 生活の自己管理能力を涵養する。 A 基本的生活習慣を確立させる。『欠席をしない』、『身だしなみを整える』、『あいさつを励行する』、『時間を守る』の徹底を図る。 B 礼儀や言葉遣いなど、基本的なマナー及び公共マナー・交通マナーを身に付けさせる。 C いじめ問題や希死念慮など命に関わる事案の早期発見と早期対応のため、生徒ひとり一人に寄り添いながら声かけや観察をおこなう。	B
4 学校行事に関しては、生徒会を中心として、工夫を凝らして計画以上の行事を開催した。特に文化祭は一般公開とし、生徒だけでなく教員も一緒になって感動することができた。	(4) 学校行事や部活動を通して学校生活を充実させる。	ア 生徒会・各種委員会活動の活性化を図る。(学校への帰属意識の高揚、高い目標での自己実現) イ 校内外での体験的な活動を通じて、自己肯定感を高めるとともに、他者への理解を深め、一人一人の心の成長を図る。 ウ 部活動への興味・関心を高め、積極的に部活動に参加させる	B

別紙様式2（高）

5 自然環境保全活動団体「We Are 沼っ子！」の活動が地域社会から評価されている。茨城県環境フォーラムにワークショップを出展しボランティア活動等を実施し、地域社会の一員としての自覚や奉仕の精神を培っている。また、国際交流プログラム実施の段取りをつけることができた。	(5) 家庭や地域から期待され信頼される学校づくりを推進する。	ア 家庭・地域社会と適切に連携協力（国際交流プログラムの実施、町駅伝大会をはじめとした地域行事への参加等）して、地域から期待され、信頼される開かれた学校づくりを推進する。 イ 学校ホームページやマスコミ等を活用して、学校の教育活動及び生徒の活躍する姿を積極的に発信する。 ウ 事件・事故の未然防止に努め、安全・安心な学校づくりを推進する。	A
6 教職員の人員削減により、教職員1人の業務量は増加傾向にある。勤務時間の管理及び縮減に努めた。ICTを活用した諸連絡の電子化など業務の効率化を図ることを発展的に継続することができた。	(6) 働き方改革の推進	ア 1月の勤務時間外の校内在校時間合計が、80時間を超える職員を0人とする。 イ 1月の勤務時間外の校内在校時間合計が、45時間を超える職員は6人以下にする。 ウ 会議の在り方を考え生徒と向き合う時間の確保に努める。	A
7 命に関わる事案に即座に対応することができるよう、生徒ひとり一人を観察し、情報を共有して生徒個々の理解に努める。生徒に寄り添う指導と支援を重視する必要がある。	(7) 生徒に対する安心・安全の実施	ア 来校者は最初必ず事務室にて受付を行うなど、来校者の管理の徹底を図る。 イ 危機管理マニュアルを遵守し、事故発生時に正確かつ速やかな対応ができるようにする。 ウ 生徒間のトラブルや事故等が発生した際に全教職員で適切な対応ができるよう、日頃から指導体制の確立を図る。 エ 保護者や関係機関との情報共有や連携を図り、多方面から生徒支援を行っていく。	B
8 茨城町が主催するワークショップに参加し、町民と連携しての町作りをおこなった。また、英語プレゼンテーション等へ参加し、生徒の得意を伸ばす教育を実践することができた。	(8) キャリア・パスポートの充実	ア 生徒が主体となっておこなう茨城町と協働する企画や事業を実施し、広報等で成果を発表する。 イ 生徒の得意を活かすことのできるコンテスト等に積極的に参加する。 ウ 生徒の進路を見据えた資格や検定の取得にチャレンジさせる。	B
9 授業改善としては、県教委が年度末におこなった生徒による学校評価において「授業満足度」の学校全体の評価平均は3.3（最低は2.4）であった。また、授業改善重点項目は3.3（最低は2.3）であった。しかし、個々の科目の授業では、生徒から様々な要望があるため、応えられるような柔軟性が必要である。	(9) 授業改善の促進	ア 個々の授業においては、生徒から様々な評価が浮き彫りとなっている。授業満足度についての評価は3.4以上を目指すことで、学びの質の保障を果たしたい。 イ スタディサプリを用いて、ICTを活用した授業の開発に努める。 ウ 教員の持ち味を活かした授業の工夫と展開を図る。	B

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	国語の基礎学力の向上と主体的に学ぶ力の育成	・始業前の学習準備を徹底させ、服装・態度を見直す指導をした上で始業する。	B	B	夏季休業が過ぎると授業準備ができなくなってくる。 検定試験希望者が少ないため、なかなか開催することができない。
		・漢字や語句等の繰り返し学習を通して基礎が基礎学力を付け、グループ学習や表現活動を通して主体的に学ぶ力を育成する	A		
		・教材研究をしっかりと行い、電子黒板等の I C T を効果的に利用することで、授業内容が理解出来るよう促す。	A		
		・教科書の音読テストやノート提出等を通して、その達成度を随時確認する。	A		
	進学・就職試験に対応する実践力の育成	・進学試験に向けて検定に参加させ、過去問題の演習や面接・作文指導を通して、進路実現に必要な実践力を身に付けさせる。	B		
		・グループ活動やスピーチなどの言語活動を通して、自分の思いを言葉で伝えるための自己表現力を高め、「社会」で通用する力を養い、生徒自身が自信を持てるよう指導する。	A		
地歴・公民	授業を受ける態度の育成	・話を聞く態度を身につけ、社会人として通用する力を養う。	B	B	授業を教科書外から行う事があまりできなかった。 すべての学年で必修科目となる地歴・公民の科目を今一度見直し授業作りを行う。 次年度は興味関心に重点を置き学習指導を行う。
	基礎学力の定着	・基礎学力の定着をはかり、生徒の進路を実現できるようにする。また、生徒に身近な学習内容を吟味し、興味・関心をひくような授業を展開する。	B		
	進路実現に対する意識の向上	・年次と連携し、授業や課外などで就職試験やセンター試験の過去問題を取り上げることにより、進路実現の意識を高め、就職試験や進学試験に対応できる力を養う。	C		
数学	授業を受ける態度の育成	・授業開始時刻を守る・ノートを取る・授業者の説明を聞くなどの、学習に取り組む基本的な態度を育成する。	B	C	習熟度別授業の導入により、数学を苦手とする生徒へのきめ細かな指導が実践でき、学習意欲の向上など一定の成果が見られる一方、定期考査における知識・技能の基本問題正答率は 60%に留まっており、定着度に課題が残る。 I C T 機器の効果的な活用を含め、指導方法および評価問題の作成手法について研究を進める必要がある。
	I C T 機器を活用した指導法の研究	・電子黒板やタブレット、専用ソフトを活用した指導法についての研究を深め、生徒の興味・関心を引き出す授業を実践する。	D		
	基礎学力の定着と定期考査の得点の向上	・ワークやプリントによる問題の反復練習等を通して、各単元の基礎内容の定着を図る。 ・定期考査における「知識・技能」を問う問題の正解率 70%を目指す。	C		
	観点別評価方法についての研究	・観点別評価について、何を材料にどのように評価するかについて継続的に研究する。併せて、教科としての評価方法を生徒にも周知し、教員による評価と生徒の自己評価に乖離がないようにする。	B		
理科	授業を受ける態度の育成	・学習用具の準備、制服の着用、机上の整理整頓など授業を受ける態度を養う。	B	B	物理、化学、生物、地学 4 分野の内容を、教科書だけに留まらず日常事象と結び付けられるような授業を展開する。 抽象的な概念を、I C T 機器を活用することによって具体的なイメージを持てるようにする。
	分かる喜びを実感する授業の展開	・実験・演習を取り入れることにより、生徒の興味・関心を引き出し、科学の基本的な概念や原理・法則を理解できるようにする。	B		
		・電子黒板を活用し、デジタル教科書やデジタル資料を用いて、授業の中で実験や観察と同様の視覚的な刺激を与え、生徒の興味・関心・意欲を高める。	A		
		・授業展開を工夫し、生徒が主体的に授業に参加できるようにする。	B		

別紙様式 2 (高)

	日常生活の中での科学事象への気付き	・新聞やテレビ等で取り上げられた話題を授業に取り入れ、身の回りで起こる現象等に興味を持たせるとともに、豊かな科学的素養を養わせる。	B		
		・電子黒板を活用し、日常生活の中での科学事象を取り上げ共有するとともに、多角的な視点からの考え方を知ることによって、科学的素養の向上を目指す。	A		
		・学校保有林の整備や水質調査などの環境学習を通して、我々にできる取り組みについて考え、実行することによって、地域の発展に寄与する	C		
保健体育	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・「チャイム開始」の徹底や体育時の服装の徹底を図る。	B	A	授業における挨拶や集合、準備の態度が向上した。「チャイム開始」の意識も高く見られる。 運動をする習慣は身についたが、自ら積極的に動くとはまではいかない。運動への興味を持たせる取り組みが必要である。
		・授業を通してあいさつ・礼儀等を身につけさせ、基本的生活習慣を確立させる。	A		
		・集団での行動や競技におけるルールを学び、公正・協力・責任などの態度を育てる。	A		
		・準備運動での号令や準備、後片付けを仲間と協力して主体的に行うことができるようにする。	B		
	心身共に健全な発達と生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことによるよりよい人間形成	・健康や安全の大切さを認識し、自らの生活習慣を見直し健康を適切に管理することを理解させ実践させる。	A		
		・運動することに興味を持ち、体力を高めるための運動に継続的に取り組み、個に応じた指導を通して基礎体力の向上と実践力を身に付けさせる。また、体力テストの値を向上させる。	A		
	興味・関心を高める授業づくり	・意欲の乏しい生徒に対し、運動の技能を高めるとともに、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A		
芸術	授業を受ける態度の育成	・教室移動を迅速に行い、「チャイム開始」ができるよう指導する。	B	B	授業開始前準備の指導を継続していきたい。(書道) スマホの使用について教室内での継続した指導が必要である。(音楽) 生徒によって取り組む姿勢や意欲に差が生じてしまっているため、同じ取り組みをさせることに困難を感じている。個々の能力に合わせ興味を引き出せるような授業展開を考えたい。 生徒同士の鑑賞の時間を設け、個性や作品に対する愛着を持てるようにしたい。
		・歌う、楽器を奏でる、静かに鑑賞ができるように取り組ませる。(音楽)	C		
		・授業開始までに学習に必要な用具用材を準備し、着席する習慣を身に付ける。(書道・美術)	A		
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育成	・学習活動における各自の目標を明確に示し、それぞれの特徴(歌唱・楽器／古典作品・用具用材)を捉え、主体的に表現する力を身に付けるための基礎基本を理解させる。	B		
		・鑑賞を通してながら、芸術への理解を深めるとともに、芸術の豊かさを味わうことができるようにする。	B		
		・幅広い活動を通して、個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ表現させる。	C		
		・感性を高め豊かな情操を養う。	B		
	創造的な活動と個性豊かな表現力の伸長	・生徒一人一人の表現力を伸ばすとともに、作品の製作や表現活動を通し、自己の可能性や表現の楽しさを理解させる。また他の生徒の個性を尊重する心を養う。	C		

別紙様式 2 (高)

外国語	授業態度の育成	・ 基本的生活の定着を図るため、教科書・ノート等の持参を徹底させるとともに、身だしなみを整えて落ち着いた態度で授業に望むように指導する。	B	B	授業開始時までの行動を明確化し、継続的な声かけや指導を通して、時間を意識した行動が日常的に取れるよう指導の工夫を図りたい。 評価方法や課題設定を工夫し、すべての生徒が段階的に成功体験を積めるパフォーマンステストを実施することで、英語によるコミュニケーションへの意欲向上を図りたい。
		・ チャイム着席・チャイム開始を再確認し、時間を守る意識を育てる。	C		
	英語学習への意欲・関心の向上	・ ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、生徒が発話しやすい環境を整える。	A		
		・ パフォーマンステスト等を定期的に実施し、「話すこと」「聞くこと」への自身と達成感を高める。	B		
		・ デジタル教材等を有効活用し、生徒の興味・関心を引き出すインタラクティブな授業を実施する。	B		
	基礎学力の向上	・ 少人数授業の利点を最大限に生かし、個別対応・丁寧な反復指導を行うことで、語彙力・文法力の確実な定着を図る。	B		
		・ ベーシクトライや定期的な小テストの活用により、生徒の習熟度を的確に把握し、必要に応じた指導の工夫を行う。	C		
家庭	授業を受ける態度の育成	・ 学習に必要な教材の準備をさせる。また、実習においては服装をきちんとさせ、衛生面の意識を向上させる。	A	B	ほとんどの生徒が、授業に必要な道具を授業前に用意している。 被服実習や調理実習を実施し、日常生活に生かせる力が身につくよう引き続き努めたい。 日常生活で実際に使用する物や WeB サイトを授業に取り入れるなど、リアリティのある題材を扱うよう心掛けたい。
	自立できる力の育成	・ 食領域では、栄養や調理の理論、実習を通して自立できる力を身に付けさせる。	A		
		・ 衣領域では、被服の材料やその管理について学習し、自立できる力を身に付けさせる。	B		
		・ クレジットや悪質商法の学習を通して、将来賢い消費者として生きる知識を身に付けさせる。	B		
	健全な家庭生活観の育成	・ 食領域では、具体的に献立作成や調理実習を通して、健全な食生活の定着を図る。	B		
		・ 衣領域では、被服管理を通して清潔な衣生活の定着を図る。	B		
		・ 家庭・家族の学習を通して、健全な家庭生活のイメージを高める。	B		
商業	進路実現に向け、地域社会に貢献できる社会性の育成	・ ビジネス基礎において、社会人として求められる知識を習得し、生涯にわたり自ら学ぶ力を醸成する。	B	B	進路を意識させた授業を展開できるよう、さらなる授業改善を図っていきたい。 発表内容の質を高められるよう努めたい。 商法及び企業会計原則の指導の充実を図りたい。 資格取得の意義を丁寧に伝え、資格受検者増に努めたい。
		・ 実習及び発表を多く取り入れて、思考やアイディアを形として表現できる創造性を醸成する。	A		
		・ 商業の諸科目を通して、企業が順守すべき法令や個人情報の大切さを指導することで、社会人として節度ある人財の育成を目指す。	B		
	資格取得に意欲ある生徒の育成	・ 情報処理検定等の資格取得に向け、自ら学ぶ生徒を醸成する。	A		

別紙様式 2 (高)

情報	情報モラルの育成	・学習を通して、情報社会の中で守るべき法律等を身に付け、社会人として必要なルールやマナーを育成する。	B	C	今年度初めて実施したオンライン授業の課題点を把握し、次年度以降の円滑な実施に生かしていく。
	情報活用能力の育成	・コンピュータの基礎的・基本的な操作技術の習得を目指す。特に、年4回ある検定試験に向け積極的に取り組む過程で、情報活用能力を育成する。	D		
教務部	授業時間の確保	・教員不在に伴う授業填補をできるだけ少なくし、計画通りに授業が進められるようにする。	B	B	アクティブスクールとしての特色を維持しつつ、学級減に伴う教職員定数の削減を見据えた次期教育課程を検討する必要がある。特に、BT（ベーシックトライ）やキャリアデザイン、選択科目、少人数授業といった本校の強みが、今後も持続可能であるかを精査しなければならない。 「今」の学校を伝えるために、ホームページの更新頻度を上げ、より身近な情報をこまめに発信していく必要がある。 公開授業への参加率からも見て、保護者の学校教育への関心が高まっている傾向にあるこのタイミングで、後援会活動をより活性化させるため、保護者が学校行事を支援・参画できる機会の拡充を検討していく必要がある。
		・教員が「チャイム開始」「チャイム終了」を心がけることで生徒にもその意識を持たせ、1時間を大切にする授業を実践する。	B		
	教育課程の研究	・生徒及び教員数減に対応可能な、次年度以降の教育課程について検討する。	D		
	各教科・科目の指導法及び評価方法の研究	・生徒の実態に即した教材の提供や、定期考査の在り方について研究し、実践する。	B		
		・デジタル教材、電子黒板、タブレットPCの効果的な活用及び教授法の研究を促進し、授業におけるICT機器の活用頻度を上げる。	C		
		・より合理的な観点別評価方法について教科間で研究し、実践する。	C		
	学校内外への情報発信の充実	・学校ホームページを迅速かつこまめに更新することで、本校の活動の様子を外部に積極的に発信し、学校への理解と関心を深めてもらう。	D		
		・スタディサプリの活用を促進し、紙媒体の連絡で滞りがちであった保護者等への連絡の精度を上げる。	C		
	校内情報管理の徹底と周辺機器の整備	・適切な校内情報管理の徹底に努める。	A		
		・ICT機器の整備を促進し、教員による機器のスムーズな活用に備える。	B		
	後援会活動の活性化	・後援会の運営体制を整え、適正な運営を行う。	B		
		・保護者が学校行事に参加できる機会をさらに増やし、後援会活動の活性化を図る。	D		
	図書館の整備と利用率向上、放送委員会の充実	・書籍や図書資料の充実や備品管理に努め、皆が使いやすい環境を維持し、図書館については生徒の利用率向上を図る。	B		
		・図書委員の研修会への参加、茨城町立図書館による出前講座受講などの校内活動を通し、地域の図書館との連携を図りながら、図書館利用マナーの意識の向上を促す。また、図書館だよりの生徒主体の作成・発行を行う。	B		
		・集会や学校行事がスムーズに進行できるよう、放送機器の事前準備を速やかに行う。 ・放送委員の活躍の機会を整理し、放送委員会活動を充実させる。	C		
生徒支援部	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・挨拶、礼儀、言葉遣い等を中心に、マナー全般の向上を目指し、継続して指導を行う。	B	B	今後も規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立の向上を目指していく。 生徒への継続的な声掛けと保護者への協力を得るための工夫と根気が必要である。
		・遅刻の減少を図る。(目標達成率を登校生徒の5%未満とする。)	B		
		・さわやかマナーアップ運動の推進。(身だしなみを整える。)、服装頭髪指導の徹底を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

	問題行動及び非行化の未然防止	・教員と保護者間の連携を密にし、指導にあたる。	B		教員間の共通理解の徹底を図る必要がある。 生徒の自己指導力を向上させ、安全と健康に関する意識を高めることと、自らを律することができるようにする。
		・校舎内外及び学校近隣地域の巡回指導の徹底を図る。	B		
		・教員間での公平、公正な指導と共通理解の徹底を図る。	B		
		・校外巡回指導及び立哨指導、保護者との連携を密にし、事故の未然防止に努める。	B		
	交通事故の未然防止	・交通安全講話の実施。	A		
		・交通安全及び交通法規遵守、ルールやマナーに関する意識の高揚を図るため、ホームルームその他の機会を設定する。	B		
	自己の安全や健康に関する意識の高揚	・薬物乱用防止（喫煙を含む）については、講習会（外部講師による）の開催などにより指導の徹底を図る。	A		
		・携帯電話やスマートフォンの適切な利用について、家庭でのルール作りを推進し、講習会（外部講師による）を開催し、指導の徹底を図る。	B		
		・社会生活、集団生活における自己の役割と責任を自覚させる。	B		
保健厚生部	清掃の徹底と環境整備の充実	・年間計画に基づき定期検査及び日常点検を実施し、学習環境の充実を図る。	A	B	来年度は尿検査実施を90%以上にしたい。（今年度は85%） 年度後半は保健厚生部員が多く不在になったため、相談窓口が減ってしまった。
		・毎日の清掃、一斉清掃の徹底を図る。	A		
	生徒の心身の健康管理の充実	・健康診断・各種検診の実施と事後指導の徹底を図る。	B		
		・生徒の健康維持のために担任・保護者・学校医との連携を図る。	A		
		・各生徒の様子を観察し、健康管理を徹底する。	A		
	防犯・防災意識の高揚	・避難訓練・を実施し、防災意識の高揚を図る。	A		
		・不審者に迅速に対応する研修を行い、防犯意識の高揚を図る。	A		
	教育相談活動の充実	・教職員、スクールカウンセラー、保護者と連携を図り、生徒への支援を行う。	A		
		・生徒が相談しやすい環境を作る。	B		
	校外・校内における研修会の積極的な参加と実施	・校内において研修会を開きカウンセリングの様々な方法を学び、生徒一人一人の悩みや不安に対応する。 ・校外における研修会に積極的に参加する。	B		
特別活動部	生徒会活動の充実	・生徒会役員として自覚ある行動を促す。	A	B	クラスマッチや体育祭などの行事では、実行委員と生徒会役員が協働して主体的に取り組み、充実した行事となった。冬期休業前の生徒会主催クリスマススポーツ大会では多くの参加者を集め、主体的な運営を行うことができたので、次年度も実施したい。 部活動は活動が活発な部もあるものの、加入生徒の拡大にはつながらなかった。次年
		・生徒総会やクラスマッチ、体育祭などの学校行事において自主的・自発的な行動を促す。また、生徒が主体的に企画・運営できるよう計画的に指導する。	B		
	部活動の奨励と活性化	・仮入部や部活動見学を充実させ、部活動加入生徒の拡大を図る。	B		
		・部活動指導を充実させ、運動部・文化部の活性化を図る。	B		
		・部活動掲示板などを利用し、各部活動の活動状況・活躍を全校生徒に向けアピールする。	B		
	ホームルーム活動の充実	・ホームルーム役員の積極的な活動を促す。また、ホームルーム活動資料の活用を図る。（道徳教育の充実、東日本大震災や新型コロナウイルスなどを踏まえた安全教育・体験活動、ケータイ・スマホ利用について）	B		
		・好ましい人間関係の構築やこころの教育、ボランティア活動をとおして、奉仕の精神を養う。	B		

別紙様式 2 (高)

	学校行事への積極的に参加する態度の育成	- 各ホームルーム役員や各常任委員会の役員として、クラスマッチなどの学校行事に積極的に参加する態度を育成する。また、学校新聞やホームページなどを活用した広報活動の充実を図る。 - 自然環境保全活動団体「We Are 潤沼っ子！」の活動をとおして、地域社会や地域住民との交流行事やボランティア活動などに積極的に参加し、地域の活性化に貢献する心や態度の育成に努め、地域の一員としての自覚が持てるように指導する。	A		度はアピールの方法を検討したい。 地域社会との自然環境保全活動は、実施することができなかった。
			B		
	キャリア・パスポートの活用	キャリア・パスポートを活用して、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びを積み重ねて成長させる。例えば、授業や学校行事、部活動などの体験や学びで活用していく。	B		
進路指導部	生徒の進路決定支援の充実	各種ガイダンスや、インターンシップ、デュアルシステムの実践を通して、生徒にとって望ましい職業観と勤労観を段階的かつ計画的に育成する。	A	B	就職・進学等の状況は良好であり、学校斡旋による就職希望者は全員が決定し(100%)、進学希望全員の進路先を決定できた。しかし、保護者の理解を得ることができずアルバイトに回った生徒が4名おり、今後も就職・進学については保護者の理解をより深めるための対策を講じる必要がある。 就職関係については、今年度よりラーケーションを利用した会社見学等を17名の生徒が実施し、企業の概要を多く把握できるなど、とても効果が大きかった。
		各教科・年次と連携し、スタディサプリの計画的かつ効果的な活用方法の確立を目指す。	B		
		企業説明会や求人等で来校される企業担当者とのヒアリングを丁寧に行い、企業と応募生徒のミスマッチを防ぎ、生徒のキャリア形成の一步目を堅実なものとする。	A		
		生徒との進路相談をこまめに実施し、進路選択のミスマッチを防ぐ。	A		
	情報の共有	本校キャリア教育のスタイル確立に向けて、キャリアデザイン等の実践を全年次で共有し、効果的な工夫・改善を図る。	B		
		到達度テストの定期実施により、基礎学力の定着および学力向上の度合を分析する。	B		
		受験報告書や入試情報の分析を積極的におこない、進路指導に反映させる。	B		
		ジョブサポーターやハローワークとの連携を密にとり、タイムリーな求人情報を得るとともに、それらの情報を生徒や保護者へ速やかに提供する。	A		
		「進路の手引」をさらに活用しやすくなるように編集し、生徒及び保護者への進路情報提供を確実に行う。	B		
	進路相談環境の整備・機運醸成	進路指導室や進路資料室を整備し、生徒が進路情報を得たり進路相談しやすい環境をつくる。	B		
		進路選択に役立つ資料やポスター等の提示・配信を行い、生徒が情報に接する場面を増やし、主体的な進路選択の機運醸成を図る。	B		
1 年次	基本的生活習慣の確立	時間を守り、時間を意識した行動がとれるようにする。	A	B	多様な価値観と特性を互いに尊重し、認め合う態度が育っている。次年度も引き続き、他者理解と自己理解を育てる支援を行っていく。 一方で、成績上位層への個別学習支援、上級学校への進路指導が不十分であった。進
		高校生としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、きちんとした制服の着こなしができるようにする。	B		
		きちんと「伝え」「聴く」姿勢とスキルを身に付けさせる。	B		
		集団の中にある人間関係を理解し、自他の違いを認めることができようにする。	A		

別紙様式 2 (高)

	基礎学力の向上	・集中し、落ち着いて授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。	B		路指導部とも連携し、支援していきたい。
		・「ベーシックトライ」を通して、基礎学力の向上を図る。	B		
	進路希望の実現	・キャリアデザインⅠを通して、社会人として必要とされる資質や自己の適性について気付かせる。	B		
		・平常及び休業中課外を計画的に行い、上位層の学力伸長と各種検定の合格率向上を図る。	D		
	諸活動への積極的参加	・部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人ひとりが個性を発揮できる環境を整える。	B		
		・学校行事や校外活動への積極的な関わりを支援し、生徒どうしだけでなく、いろいろな人とのコミュニケーションがとれるようにする。	B		
2 年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り行動できるようにする。特に授業や集会等のチャイムスタート及び授業に臨む姿勢づくりの徹底を図る。	B	B	多くの生徒が規範意識を持ち、落ち着いた学校生活を送ることができるように心がけられるようになったが、一部社会性が低く、集団生活をきちんと送ることができない生徒もいた。 ベーシックトライや普段の授業など、継続的に取り組み生徒が増えた。 インターンシップや企業説明講座など、事前準備や事後指導なども含めて積極的にとり組む生徒が増えた。 学校行事では、クラスで一丸となり取り組む生徒が多かった。 修学旅行において、平和学習やグループ活動などを充実して行うことができた。
		・中間年次としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、正しい制服の着こなしができるようにする。	B		
		・集団生活の中で、自他の違いを認め他者を尊重する心を育て、道徳心を身に付けさせる。	B		
		・あいさつと正しい言葉遣いを習慣付け、「伝え」「聴く」姿勢とスキルを身に付けさせ、コミュニケーション力の向上を図る。	B		
	基礎学力の向上	・授業に臨むための好ましい姿勢を身に付け、学習に集中して取り組むことができるようにする。	B		
		・ベーシックトライⅡを通して、進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。	B		
		・スタディサプリでの学習から、毎日の学習習慣形成につなげられるようなシステムづくりを行い継続的な学習の意識を養う。	A		
	進路希望の実現	・進路希望の実現に向け、キャリアデザインⅡやインターンシップなどを通して社会人として必要な資質や自己の適性に気付くことができるようにする。	A		
		・夏休みなどの長期休業を利用し、オープンキャンパスなどに積極的に参加できるように告知の徹底を図る。	A		
	諸活動への積極的参加と集団の一員としての自覚	・部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人一人が個性を発揮して活躍できる環境をつくる。そして、茨城東高校の一員としての自覚を持たせる。	B		
		・修学旅行などの校外活動を通して、社会で必要とされる資質を身に付けられるようにする。	A		
3 年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り行動できるようにする。特に授業・集会等におけるチャイムスタート及び態勢づくりの徹底を図る。	C	B	本格的な進路活動に向け、身だしなみや時間を意識した学校生活を送れるよう指導できた。しかし、進路が決定した生徒から少しずつ気の緩みが出始め、一部の生徒ではある
		・茨城東高校の最高年次としての自覚を持ち、身だしなみや行動面で後輩の見本となるような学校生活を送れるようにする。	C		
	基礎学力の向上	・一つ一つの授業時間を大切に取り組み、バランスよく知識を身に付けられるようにする。	B		

別紙様式 2 (高)

		・ベーシックトライⅢとスタディサブリの課題配信を通して、進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。	B		が、卒業を目前にして服装の乱れが目立った。 進路決定に向け、事前の準備や情報共有を密にし、十分な面接指導や個別指導ができた。 生徒と保護者の意向により、縁故での就職を希望する生徒の割合が例年より多い印象だった。しかし、事業所と保護者との連携から、決定には至らないケースが数件残った。 生徒同士が互いに協力し合い、学校行事を盛り上げた。
	進路希望の実現	・進学や就職試験対策の模擬試験や課外授業、個別指導を計画し、個々の進路希望に応じた進路指導を実践できるようにする。	B		
		・計画的に面接練習を行い、入学試験や入社試験に対応できるようなコミュニケーション能力の素地を高められるようにする。	A		
		・保護者との連携を密にし、進路情報を共有することにより進路先内定後の辞退や早期退職等の予防を図れるようにする。	B		
	茨城東高校の一員としての自覚と社会人としての準備	・学校行事に休まず参加し、結果よりも互いに協力し自身の力を発揮することの大切さを意識し、助け合い・学び合いの精神を持って行動できるようにする。	A		
		・各種学校行事においてリーダーシップを発揮し、これまでの本校の伝統を継承していくとともに、将来地域のリーダーとなる資質を身に付けられるようにする。	A		
事務部	予算の適正な執行	・公金であるという認識のもと、コスト意識を持ち最小の経費で最大の効果をあげられるよう早期かつ効率的な執行に努める。	C	C	各施設の修繕箇所の特定、各部からの要望を正確に把握し、速やかな予算の執行に努める。 安心安全な教育環境を目指し、施設改修整備を計画的に実施していく。 省エネを意識（照明設備のLED化）した取組を継続する。 来客対応、電話対応等、窓口業務対応の意識向上を図る。
	施設設備の適正管理及び教育環境の整備	・定期的に校内巡視を実施し、校内危険箇所の早期発見及び早期改修の実施に努める。また、施設設備の整備・改修など、教育環境がより充実するよう努める。	C		
	省エネルギー・資源リサイクルの推進	・引き続き省エネルギー（節電・節水等）の推進に取り組み、使用量の削減に努める。特に電気料については、契約電力が前年度を上回らないように注意する。	C		
		・廃棄物の分別を徹底し、焼却ゴミの排出量を削減する。また、グリーン購入法に適合した物品・コピー用紙等の購入により資源リサイクルを推進する。	C		
	窓口等での適切な接遇	・学校の第一印象は窓口業務にかかっているという自覚を持ち、来校者や電話での対応をより適切かつ丁寧に行うよう心がける。	C		

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない